

2024年3月11日 東日本大震災から13年を数えての祈り

-東日本大震災を振り返って-

東北バプテスト連合 被災支援委員会

2011年3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖地震の災害と、それに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故による被災の「東日本大震災」から13年になります。地震の規模はマグニチュード9.0、最大震度7を観測しました。震度7は、「立っていることができず、這わないと動くことができない」、「屋内では、固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある」、「屋外では壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる」「補強のブロック塀も破損するものがある」規模の、日本観測史上最大の地震であり、東北地方太平洋沿岸部を中心に、広範囲に被害をもたらしました。地震による津波は、岩手県大槌町で10m以上、宮城県牡鹿半島石巻鮎川で8.6m以上、福島県相馬市で9.3m以上が観測され、さらに宮城県亘理町では町の半分が津波で浸水し、その浸水深は7.3mを記録、300人以上の方々が犠牲になりました。

この地震による人的被害は、死者18,131人、行方不明者2,829人にも上る甚大なものでした。住宅被害として、全壊約12万9千棟、半壊約26万5千棟、一部破損約74万3千棟、津波浸水被害約3万6千棟に及ぶ広範囲に大きな被害が発生しました。また地震の揺れや津波で火災も、1都1道11県で累計330件発生しました。さらに、電気・電話・上下水道等のライフラインが停止し、停電のトラブル、道路・鉄道等も被害を受けました。また東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故で、高濃度の放射性物質が大気中に放出、「原子力緊急事態宣言」が発令、広範囲の住民の避難が行われました。この宣言は今も発令中で、未だに多くの人々が地元を離れ避難生活を余儀なくされています。そのような中、2023年11月現在で全国47都道府県の852市町村に、約3万人に方々が避難生活を

され、同年3月末の統計では、1都9県での震災関連死者が3,794人にも及びます。

13年を数えようとしている現在、「復興」の名のもとに被災の各地は大きく変わりました。確かに道路が新しくなり、巨大な防潮堤や高台に新しい住宅ができました。しかし、家族や故郷を失った悲しみや痛み、壊されたコミュニティーや放射性物質によって汚染された土地、水、さらに急速に進む高齢化などの故郷の現状は、今もなお大きな課題として人々にのしかかっています。特に福島では、放出された放射性物質による高い放射線の影響が、13年を迎えようとしている現在でも強くあります。確かに街の「除染」は進みましたが、山林は除染できません。目に見えず、においもない放射能によって、そこそこに放射線量の高い場所の「ホットスポット」が存在しています。直ちに健康被害が出ることはない放射線量だといわれますが、低線量でも長期にわたって被曝する不安はぬぐえません。特に13年前に子どもだった方々、現在の子どもの「低線量被曝」による健康被害の有無を長期にわたって見届けなければなりません。同様に、事故を起こした東京電力福島第一原子力発電所の「廃炉」や「汚染土・汚染水」の処理には何十年、いや数百年もかかると言われます。高線量の放射線に阻まれ、「廃炉」は計画通りに進んでいません。未だ大きな危険を抱えている東京電力福島第一原子力発電所なので、「原子力緊急事態宣言」は発令中です。

13年を数えようとしていた2024年1月1日午後4時10分、石川県能登半島沖を震源とするマグニチュード7.6、最大震度7、能登地方を中心に北陸の広い範囲で震度6弱以上の揺れを観測する地震が発生し、大きな被害をもたらしました。被災された方々と支援者のためにも共に祈りを合わせます。

※参考資料：2021震災伝承ネットワーク協議会、2023年復興庁ホームページ等

いの かだい
〔祈りの課題〕

* 東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故から13年を数えます。北は青森県から南は千葉県に至る広範囲の地域で被災された方々に主の慰めがありますように。

* 今もなお避難を余儀なくされている方々に、主の守りと支えが豊かにありますように。

* これからも引き続き起こるであろう災害への備えができますように。東日本大震災の様々な経験が活かされますように。

* 東京電力福島第一原子力発電所の事故によって放出された、大量の放射性物質による健康被害から守られますように。そして、「廃炉」や「汚染土・汚染水」処理が安全に進みますように。

* 各地で想定される巨大地震と、原子力発電所の持つ危険性を忘れることがありませんように。そして再び、原子力発電所に関わるあらゆる事故が起きませんように。

* 能登半島地震をはじめ、国内外で起こっている自然災害の被災の方々に、主の慰めがありますように。そして、その避難している場所で、あらゆる感染症から守られますように。

* ミャンマーの軍事クーデター、ロシアによるウクライナ侵攻による紛争、イスラエルによるガザ攻撃など、世界各地での争いや戦いが停止し、その痛みに関心することができますように。また、民意を無視して出された、辺野古埋め立て「代執行」にさらされる沖縄の方々と共に歩むことができますように。そして、和解の務めを担う者となりますように。

〔祈り〕

主よ、東日本大震災から13年を数えました。私たちは今日、あの日の出来事を思い起こします。
広い地域でたくさんの被害を受けました。家族や友人を亡くし、故郷、生活、仕事など、様々なものを失いました。大きな分断の痛みと悲しみ、深い喪失感の中、今日まで歩んできました。何年経ってもまだまだ心の深いところにある闇は埋まりません。しかし、あなたへの期待と、あなたの「共にいる」という約束、さらに多くの人々の祈りと励ましの中、今を生きています。これからも、今日を生き、明日に向かう力と恵みを与えてください。そして悲しみの中にある方々や、痛みを持つ方々と心を合わせ、一つにしてください、一緒に生きることができるよう。特に、能登半島地震をはじめとしたさまざまな国や地域での自然災害被災の方々へ、祈りを合わせます。

— ここで、それぞれの言葉で、先に挙げた「祈りの課題」をお祈りください —

たくさんの祈りの課題を覚え、被災の方々や世界で新たに起こる苦難の方々と共に祈りつつ、支え合い、子どもたちにこの経験を伝えながら心を高く上げ、前に向かってすすむことができますよ
う、主よ、導いてください。そして主よ、あなたの平和が実現しますように。私たちの信仰をいつも新しくし、希望に生きる者としてください。

救い主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン